

花卉園芸学研究室で学んだこと

花卉園芸学研究室 学部4年

大 森 温

柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室では、渡辺先生をはじめとする教職員と技術職員の方々のご指導を頂きながら、学生10人が研究や実践的な栽培技術の習得に励んでいます。

当研究室では花卉の生理的反応や花色の変化などのほかに、薬用植物の成分解析や栽培方法の評価、緑化植物の耐陰性の評価など、幅広いテーマで研究を行っています。また、週に一度、植物の栽培や管理、出荷調整、播種などの生産技術を学ぶ実習が行われ、「講義で得た知識を生産現場でどのように生かすのか」、「生産現場ではどのような問題点があり、どのように解決しているのか」など、座学だけでは身に着けることのできない知識や技術を学んでいます。

私はこれまで植物を栽培した経験がほとんどなく、配属された当初は、何をすればよいのか全く分からない状態でしたが、先輩や先生方から播種や灌水、実験のやり方などを手取り足取りご指導いただき、少しずつではありますが、技術を習得してきています。

そんな先輩方が卒業し、私たちの代が最高学年になった矢先、新型コロナウイルスの流行が始まりました。新型コロナウイルスの影響は大きく、入構規制により大学には行けず、研究はおろか、自身の研究植物の灌水もままならない状況でした。そのような状況の中でも数少ない登校日に他の人の灌水を代わりに行うなど、お互いに協力し合うことによって困難を乗り越えることができました。

私がこの研究室に配属されて約1年が経ちましたが、そのなかで多くのことを学びました。1つ目はゼミでの論文紹介です。当研究室では週に1回、自身の研究に関する英語の論文を探し、紹介するというゼミを行っています。自身の研究を行うにあたって、「足りていない情報が何なのか」、「その情報を得られるような論文を探すためにはどのように検索をすればよいのか」、また、選んだ論文をわかりやすく伝えることの難しさなどを感じています。ゼミの発表後は、学生、先生方とのディスカッションを行うことによって、別の観点からの考え方や自身が理解しきれなかった知識を補足し、自身の研究について理解を深めることができます。また、他の

学生の発表を聞くことによって、自身の研究植物以外の知識を得ることができ、それが自身の研究を発展させるヒントになることもあります。ゼミでの発表を通して、普段から渡辺先生がおっしゃっている、「ただやる（結果を出す）だけでなく、それを相手にわかるように伝えることが大事」という言葉の重要性を実感しています。

2つ目は準備や試行錯誤の大切さです。自身の研究テーマが決定した後、すぐに実験を行うのではなく、測定項目の精査や予備試験など、準備だけで4か月を要しました。この4か月の準備期間があったからこそ、自身の研究植物に対する知識や研究の意義などを深めることができました。また、実験がメソッド通りにいかないときは、少しずつ条件を変えていったり思い切って全く別のメソッドに切り替えたりすることもありました。他にも予備試験で面白い結果が出た時は、それを測定項目に加えてみたり、ハプニングが起きた時もすぐに対応して実験が続けられるようにするなど、試行錯誤したことを挙げればキリがありません。これらの試行錯誤によって自身の研究をより良いものにすることができたと思います。

この1年間、研究室でのゼミや研究、実習を通して、今まで知らなかった様々なことを学ぶことができました。しかし、まだまだ至らない部分が多くあります。私は大学院に進学する予定です。今後は今持っている知識を深め、新しい知見を得つつ私がお世話になった先輩方のように後輩に少しでも多くのことを伝えていければと思っています。

